

タンネの氷柱

(昭和八年寮歌)

卜部清君 作歌
白石祐義君 作曲

一

タンネの氷柱消ゆる頃
胡蝶は眠る花の宿
牧場に結ぶ夢遙か
青き希望の雪峯こえて
四海に羽振る若鵬の
石狩を立つ意気をみん

二

朝里の丘に烏頭咲けば
蝦夷が芙蓉の雪とけて
千尋の懸崖ゆくだけ入る
忍路の沖の真白帆に
万里の波濤翔らんと
白鷗はしばし憩ふなり

三

真紅の夕陽山の端に
もゆる紅葉をかざしたる
友がゆくての野を遠く
幌馬車の影消え去りぬ
蓬髪風に靡けつつ
懐情は尽きず果てもなく

四

十勝の峰に捲き起こる
吹雪怒りて咆ゆる夜も
旭光東に色めけば
熊追ふ愛奴の雄叫びに
大雪原の靈光や
無絃琴の音ぞ高し

五

懸る垂氷に月くだけ
千々の瞑想は来し方の
六十の秋はしるくして
緑に浮ぶ白亜城
苔むす檜鐘の哀調きけ
若き力を求むなり